

幼児版マタernal・アタッチメント(MA)尺度作成 および因子構造の検討

○吉原可恋・金平希

(福山大学大学院人間科学研究科・福山大学人間文化学部心理学科)

目的

本研究では、就学前(3~6歳)の定型発達児を持つ母親を対象に、幼児版 MA 尺度を作成し、その因子構造および信頼性について検討することを目的とした。

方法

倫理的配慮 本研究は、福山大学学術研究倫理審査委員会の承認(承認番号:H29-ヒト-10)を得て実施した。

調査対象者および調査期間 就学前(3~6歳)の定型発達児を持つ母親を対象として2022年10月にWEB調査を実施した。調査対象者は、503名(母親の年齢;平均年齢37.11歳,SD=6.02,子どもの性別;男児212名,女児291名)であった。

調査内容 ①フェイスシート②MAに関する質問項目の構成について調査をした。①は、母親の年齢,就労の有無,就労形態,同居人数,子どもの年齢,性別,所属,入園開始時期について回答を求めた。②は、眞野他(2018)の学童版 MA 尺度を基に、愛着尺度日本語版(中島,2001,2002;太田,2001;辻野他,2000),母親の子どもに対する愛着(大日向,2016),ボンディング質問票(山下,2003)を参考に、合計41項目の幼児版 MA 尺度を作成した。

結果

幼児版 MA 尺度を作成するにあたり、眞野他(2018)の学童版 MA 尺度と同じ因子構造になるかを検討するため、確認的因子分析を実施した。その結果、モデルの適合度は改善の余地があると考えられたため(CFI=.91, RMSEA=.09, SRMR=.06),幼児版 MA 尺度の41項目を用いて探索的因子分析を実施した。天井効果が認められた20項目を削除し、残りの21項目で分析を実施した。因子負荷量を基に7項目が削除され、3因子14項目が抽出された(Table 1)。これら14項目で確認的因子分析を実施した。その結果、眞野他(2018)

の学童版 MA 尺度よりも適合度が改善されていた(CFI=.94, RMSEA=.07, SRMR=.05)。クロンバックの α 係数は,.81-.90であり、十分な信頼性が確認された。

Table 1
幼児版MA尺度における探索的因子分析結果($\alpha=.90$)

| 項目番号 | 質問項目 | 第1因子 | 第2因子 | 第3因子 | 共通性 |
|------------------------------|------------------------|------|------|------|-----|
| 第1因子 子どもへの配慮($\alpha=.85$) | | | | | |
| 41 | 子どもに特別な注意を払っている。 | .72 | -.13 | -.03 | .37 |
| 40 | 子どもが考えていることを知っていたい。 | .68 | -.22 | .11 | .40 |
| 32 | 子どもの態度や様子に心を配っている。 | .68 | .05 | .05 | .56 |
| 34 | 子どものためなら喜んで何でもする。 | .55 | .11 | .04 | .44 |
| 33 | 子どもが遊んでいるのを見るのが好きだ。 | .55 | .29 | -.11 | .52 |
| 12 | 子どものことを常に考えている。 | .52 | .17 | .04 | .46 |
| 14 | 子どもの目を見つめることが好きだ。 | .49 | .21 | .13 | .55 |
| 23 | 子どものことがいじらしく思える。 | .47 | .10 | -.07 | .25 |
| 第2因子 対児感情($\alpha=.85$) | | | | | |
| 4 | 子どもと交流することが楽しい。 | -.07 | .92 | .02 | .77 |
| 1 | 子どもと一緒に過ごすことを楽しみにしている。 | -.05 | .87 | .00 | .70 |
| 第3因子 子どもの理解($\alpha=.81$) | | | | | |
| 18 | 子どもの出すサイン(合図)を理解できる。 | -.13 | -.05 | .94 | .69 |
| 28 | 子どもの考えや気持ちを理解できる。 | .08 | .01 | .73 | .62 |
| 13 | 子どもの性格が分かる。 | .12 | .04 | .59 | .48 |
| 15 | 子どもは私のことを信頼している。 | .16 | .17 | .40 | .40 |
| 因子寄与 | | 5.22 | 4.27 | 4.21 | |
| 因子間相関 | | | | | |
| | | 第1因子 | - | .71 | .68 |
| | | 第2因子 | | - | .53 |
| | | 第3因子 | | | - |

考察

本研究の結果、幼児版 MA 尺度は、眞野他(2018)の ADHD 児を持つ母親を対象とした学童版 MA 尺度のうち、「対児感情」「子どもの理解」については一致した。一方「子どもへの配慮」については、学童版 MA 尺度の「子どもに対するあたたかい態度」の項目よりも、乳児を対象とした日本版 MAI 尺度の「わが子の世話・保護」と一部内容が対応していた。そのため年齢が低い場合は、より子どもに対して世話や配慮が MA を測定する概念としては重要になってくるのかもしれない。このことから、幼児版 MA 尺度は、乳児期や学童期と一部重複するものの、MA の質が異なる可能性が示された。

以上より、幼児版 MA 尺度は「子どもへの配慮」「対児感情」「子どもの理解」の3側面から幼児を持つ母親の MA を測定することができ、一定の信頼性を備えた尺度であることが示唆された。